

大坂奉行所刑事判決例十五題：近世中葉大坂地方に行はれたる刑事的法則(二)

金田, 平一郎
九州帝国大学法文学部助教授

<https://doi.org/10.15017/14454>

出版情報：法政研究. 8 (1), pp.165-196, 1937-12. 九州大学法政学会
バージョン：
権利関係：



大坂奉行所刑事判決例十五題

―近世中葉大坂地方に行はれたる刑事的法則(二)―

金 田 平 一 郎

目 次

拾得物に關する罪
病死傷者に關する罪
人藏匿の罪
人勾引の罪

本篇は、本誌第七卷第一號所載拙文の續篇である。しかしその體裁を改めた所がある。尙ほ、前文中補訂を試みねばならぬ箇所が數々存するのであるが、それは後日に譲ることにする。

拾得物に關する罪

徳川時代に於ても、遺失物漂流物を拾得して届出です、之を横領せる者は處罰せられたのである。判例を通して、此點に關する、大坂の原則を窺つて見よう。

第十七判決例 (「諸御用御窺書」寶曆四戌年乃至十辰年の分收録)

寶曆七丑年(朱)「盜賊方磯矢市左衛門立合八田五郎左衛門(書)」三好半切もの(朱)「流荷物を拾ひ上隠シ

置候者片付之儀相窺候書付」細井安藝守」所預ケ龜田三郎兵衛御代官所攝州西成郡三軒屋町扇屋與三兵衛借屋和泉屋九右衛門當丑三拾五歲」黃紙下ケ札(朱書)」此九兵衛儀拾ひ者致シ候段早速可訴出處無其儀徳用ニ可致存久兵衛船江預ケ置候仕方不届ニ御座候間重キ過料可申付哉(朱書)」井上河内守殿御附札(朱書)」此九右衛門儀一通之過料被申付久兵衛儀叱置加子共儀者急度叱置可被申候(朱書)」右九兵衛儀難船之流荷物拾ひ取隱置候旨相聞江候ニ付吟味仕候處上荷船ニ乘日々川口江參元船之積荷物を致瀬取渡世罷在候處當正月廿四日木津川筋葭嶋之邊江參候砌酒入候四斗樽多流來候ニ付賣拂徳用ニ可致與存付拾五挺拾ひ上ケ幸乃近邊ニ繋リ居候藝州廿日市浦久兵衛船者兼而存居候故右船江參暫之内預置(中略)都而拾ひもの之儀者所之者江も相届早速可訴出事ニ候處徳用ニ可致與存右之仕方吟味之上無申披認候旨申之候」(下略)

第十八判決例

〔諸吟味窺書寫〕天明五年の分收録)

海中ハ掛揚候品不訴出一件」御仕置窺書」書面伺之通御仕置可申付旨御附札を以被仰渡奉畏候」巳二月十八日「小田切土佐守」所預ケ青木楠五郎御代官所攝州西成郡福村百姓庄次郎巳貳拾四歲」(以下十三被告)右之者共御仕置黃紙下札を以奉窺候以上」巳二月「小田切土佐守」御城代阿部能登守殿御附札」此庄次郎外拾壹人儀伺之通掛揚米并飯米ニいたし候分も代銀ニ而取上過料三貫文つゝ可被申付候」黃紙」此庄次郎外拾壹人儀海中ハ濡米大豆其外之品等掛揚候ハ早速所之者江申聞訴出可申處其儀ニ不心付庄次郎文四

郎儀者掛揚米之内手傳候仁兵衛三四郎江も差遣一同飯米いたし又ハ其儘ニ致所持居候段不埒ニ付右掛揚米取上飯米ニいたし候分も代錢ニ而取上候上過料三貫文ツゝ可申付候哉」此仁兵衛三四郎儀伺之通貫請候米并飯米ニいたし候分も代錢ニ而取上急度叱リ置可被申候」此仁兵衛三四郎儀庄次郎文四郎海中カ濡米掛揚候由ニ而持歸リ候様子見請候ハ、所之者江申聞訴出候様心を付可申處無其儀不心付俱ゝ手傳持運右米之内貫受候段不埒ニ付貫請候米取上致飯米ニ候分も代錢ニ而取上候上急度叱リ置可申候哉

之等の判決例に依つて、近世中葉時代、少くとも大坂地方に、拾得物を訴出でざる者は過料（幫助者叱り）、なる制規が行はれたことを窺ひ知られるのである（此種の届出義務に就いては次段所説も参照）。

所で、此原則は、「公事方御定書」下巻第六十條『拾ひ物取斗之事』（「徳川禁令考」後（聚第三帙四六四頁）の條の

従前々之例

一拾ひ物いたし不訴出儀顯ニおゐてハ

過

料

と同一原則であつたのである。

扱て、此の如く、拾得物の届出をなさざる場合は、刑事責任が発生するのであるが、一方、届出ありし場合、遺失物漂着物は如何に處置せられたか。當時、遺失物處置亦、原則として、判決の形式を以て宣告されたらしく、判決例集中に、關係資料を見出すことが出来るのである。今その類例を掲げて、此制度の一斑を窺つて見度い。（尚ほ、之等の判決は刑事判決ではなく、本篇の標題に添はざる）（ものであるが、説述の便宜上こゝに掲ぐることにしたのである）。

第十九判決例

〔諸御用御窺書〕寶曆四戌年乃至十辰年の分收録)

寶曆四亥年四月^(朱)口書掛り八田五郎左衛門荻野奎右衛門^(朱)半切もの^(書)銀子拾ひ候儀ニ付申上

候書付「細井安藝守」北久太郎町三丁目升屋喜兵衛下人松之助「右松之助儀去戌十月廿七日主人喜兵衛

爲使瓦町邊江罷越歸候節喜兵衛町内ニ而反古ニ包候銀百目拾ひ候旨翌廿八日松之助召連喜兵衛訴出ニ付

遂吟味候處申口之通相違無御座候故銀子者御役所ニ取上置日本橋高麗橋兩所江其趣建札致させ段々見合

申付置最早六ヶ月茂相立候得共今ニ落し候主相知不申候先例も有之儀ニ御座候間右銀子松之助江差遣可

申哉此段奉窺候上「亥四月」細井安藝守「松平右京太夫殿御附札^(朱)」可爲伺之通候^(書)

第二十判決例

〔諸御吟味落着書留〕收録)

寅^延三十一月七日吟味同月廿六日落着「一途中ニ而金子拾ひ候儀安土町貳丁目布屋三右衛門下人大吉」

北堀江五丁目尼崎屋平兵衛方ニ旅宿阿州板野郡黑崎村惣太郎「右大吉儀去ル七日龜井橋北詰ニ而金拾五

兩拾ひ候旨即日訴出ニ付日數五日見合申付置候内右金子者惣太郎所持に候處途中ニ而落し候を大吉拾ひ

候趣承り候間指戻し候様致し度旨願出ニ付遂吟味候處惣太郎用ニ而當表登リ居去ル七日阿州船江用事有

之罷越候節懷中致し居途中ニ而落し候由惣太郎所持ニ無相違爲證據金子包紙ニ認置候金拾五兩與記候同

筆之書付并兩替屋極印有之手本金壹兩指出ニ付引合見候處手跡極印等符合致し惣太郎所持ニ無相違相

聞ニ付阿部伊勢守殿江相親候上拾五兩之金子拾ひ主大吉江七兩貳分金ぬし物太郎江七兩貳歩半金分ニ致し、兩人江渡遣し候_書」口書掛リ由比甚右衛門八田五郎左衛門

第二十一判決例

〔諸御用御親書〕寶曆四戌年乃至十辰年の分收錄

寶曆五亥年五月_(朱書)「口書掛り八田五郎左衛門金井塚園之亟_(朱書)」金子拾ひ候儀ニ付申上候書付」細井

安藝守」箱屋町十一屋四郎兵衛借屋播磨屋勘兵衛」下人吉兵衛」海部堀川町和泉屋太郎左衛門借屋尼崎

屋新兵衛」右吉兵衛儀當月十一日暮時分主人勘兵衛爲使罷出候處勘兵衛居宅々五六間程西の方ニ而金拾

壹兩一步反古ニ包候を拾ヒ早速勘兵衛江申聞候由ニ而吉兵衛召連翌十二日勘兵衛訴出候ニ付金子者御役

所ニ取上ケ置右之趣高麗橋日本橋江張紙仕置候様申渡置候處右金子者新兵衛所持ニ候を途中ニ而落候旨

同月十五日斷出ニ付新兵衛所持ニ無相違との證據有之哉と吟味仕候處新兵衛茂米駄賣致渡世ニ折々者米

帳合商をも仕堂嶋新地北町米屋又兵衛借屋加嶋屋七兵衛者米仲買ニ而兼而心安仕候故當月十一日ニも帳

合商ひ可仕と存金拾壹兩壹歩銀壹貫目才布ニ入七兵衛方江持參右金銀員數申聞當分預ケ置米相場承合罷

在候得共新兵衛存寄ニ合不申候ニ付預ケ置候才布七兵衛ハ請取新兵衛右之肩ニ掛ケ_{此義七兵衛呼出様子相尋候處申口符合仕候}

_(以上十九字朱書)同日暮時分箱屋町筋を罷歸候處右町會所ハ少シ西の方ニ而才布之紐解ケ候故歩行ながら紐を

結び罷歸候上翌十二日朝銀子入用之儀有之才布ハ銀子取出候處金子無御座候故驚入早速七兵衛方江罷越

相尋候得共預ケ置候儘ニ而才布相渡候故不存旨申ニ付此義七兵衛江相尋(以上十六) 途中ニ而才布之紐解候

節落し候儀ニ而茂可有御座哉此段可斷出と存罷在候内勘兵衛下人吉兵衛拾ひ候由沙汰承候ニ付勘兵衛町

内會所江罷越相尋候處吉兵衛拾ひ候段相違無之尤右金拾壹兩壹歩は反古ニ包在之内九兩壹歩者歩判ニ而

反古之端ニ藤之字庄之字認有之様ニ相覺新兵衛所持ニ無相違候間金子相渡候様仕度旨申之ニ付金子包候

反古相改候處藤兵衛庄兵衛と認有之新兵衛落し候ニ無相違相聞吉兵衛儀も金子拾ひ候儀早速主人勘兵衛

江相斷訴出候段寄特成事ニ御座候間先格之通右金吉兵衛新兵衛兩人江貳ツ割之積を以相渡可申哉此段奉

伺候以上」亥五日」細井安藝守」松平右京太夫殿御附札之寫(朱書)」伺之通金子落し主と拾ひ候者江半分

宛爲取可被申候(朱書)

第二十二判決例

〔諸御用御窺書〕寶曆四戌年乃至十辰年の分收録〕

寶曆五亥年六月(朱書)」口書掛り阿部次右衛門桑原信右衛門八田五郎左衛門(朱書)」途中ニ而人參拾ひ候儀ニ

付申上候書付」細井安藝守」平野町貳丁目木屋八兵衛借屋木屋藤兵衛」小川新右衛門御代官所攝州西成

郡北野村丹波屋伊右衛門方ニ當分罷在候太兵衛」右藤兵衛儀人參中買渡仕候處先月廿四日朝鮮人參小

□拾本箱ニ入布小風呂敷ニ包候を途中ニ而落候得共吟味者不相願旨同月廿七日斷出候然ル處右人參者太

兵衛拾ひ候由ニ而藤兵衛申合當月十一日訴出ニ付藤兵衛所持ニ無相違との證據有之哉與吟味仕候處山本

町平野屋茂兵衛借屋八萩屋次兵衛方ハ朝鮮人參見せ候様ニ先月廿四日申來ニ付小枚拾本桐之箱ニ入布中形水之模様之小風呂敷ニ包懷中仕同日ハッ時過次兵衛方江罷越候途中新輟町邊ニ而不圖心付懷中見候處落し候哉不相見ニ付驚入次兵衛方江者追而見せ可申旨及斷ニ置次兵衛呼出右之様子相尋（以上廿一）道筋所ニ候處藤兵衛申口符合仕候（字朱書）相尋猶又拾ひ候者も可有御座哉與方々承合候處何分不相知ニ付逆も出申間敷與存斷一通リを申出吟味者不相願候得共其後藤兵衛同商賣内ニ而太兵衛拾ひ候由承候故藤兵衛手代德兵衛與申者太兵衛方江指遣様子尋させ候處拾ひ候段相違無御座候故太兵衛申合斷出候儀ニ而右人參藤兵衛所持ニ無相違候間指遣候様仕度相願候旨申之候太兵衛儀も人參拾ひ候ハ、早速可訴出處無其儀藤兵衛方ハ様子尋ニ遣候迄其通仕置候段如何之者は亦吟味仕候處太兵衛儀丹波國瀧野郡栗栖村百姓ニ而拾ヶ年斗以前身上相仕舞所ニ下人奉公仕宿丹波屋伊右衛門儀者太兵衛同國之ニ者而兼而心安仕候故當表ニ面奉公司仕與存先月廿日伊右衛門方江罷越天王寺町昌林寺ニ下人奉公相勤候筈粗相談も相濟同月廿四日新天滿町尼屋新右衛門下人安兵衛方江用事有之罷越候途中新輟町ニ而右人參拾ひ候得共在郷者之儀故最初者人參與申儀も不存子供手遊ひ之類ニ而も可有御座與存昌林寺江罷越候駕籠昇權ハ與申者江噂仕候迄ニ而宿伊右衛門江も不申聞勿論近比當地江罷出萬事不案内ニ御座候故訴出候儀も一向不存候處其後藤兵衛方ハ手代德兵衛を以人參拾候ひ哉與申越候ニ付拾ひ候品相見せ候得者藤兵衛所持ニ無相違旨申上其節人參與申儀初而承候儀ニ而最初人參與乍存惡心有之隱置候事ニハ曾而無御座候間藤兵衛所持ニ無相違候ハ、指戾度旨申之候右之通

ニ付人參小□并箱風呂敷等藤兵衛申口ニ引合相改候處符合仕所持ニ無相違相聞候得共藤兵衛儀最初者吟味者不願旨ニ而斷一通りを申出此度拾ひ主相知候ニ付人參請取度旨今更相願候段如何之儀ニ御座候併最初斷一通りを申出候ハ心得違與相聞江申候太兵衛儀も人參拾ひ候節早速可訴出處在其儀段者不念之至ニ御座候得共全在郷者ニ而當地江罷出無間も不案内故之儀與相聞其上藤兵衛ハ手代徳兵衛を指遣候刻徳兵衛任申ニ拾出ひ候品早速指シ相見セ其節人參與申儀始而承リ藤兵衛申合訴出候段直成ル仕形御座候都而金銀等拾ひ候而訴出其後落シ主出候得は半分宛取らせ候例格も御座候間右拾本之人參掛ケ目相改貳ツ割ニ仕藤兵衛太兵衛江指遣可申哉亦者人參者不殘藤兵衛江指遣太兵衛方江者相應之禮物指遣候様ニ與申渡候筋ニも可有御座哉此段奉伺候以上」亥六月「細井安藝守」同年七月十二日被仰渡濟(紙貼)「松平右京太夫殿御付ケ札寫(朱書)」伺之通人參者不殘藤兵衛江遣太兵衛江者相應之禮物遣候様可被申付候(朱書)

以上の判決を通して、(一)遺失物の屈出があつた場合には、先づ官に於て之を保管し、次に遺失物保管の旨を公示し、約六ヶ月を経過して、尙ほ遺失者判明せざる場合は、之を拾得者に交付する、(二)反對に遺失者判明せる場合には、遺失物を折半して、拾得者と遺失者とに交付する、(三)尙ほそれが金錢以外の財物の場合は、遺失物は全部遺失者に交付し、拾得者には遺失者をして相應の謝禮を呈せしめることあると云ふ制度が、近世中葉、大坂地方に行はれたことが知られるのである。⁽⁴⁾

此大坂に於ける原則は、又「公事方御定書」上の原則でもあつたと云つて差支へないのである。蓋し、その

下卷第六十條『拾ひ物取斗之事』(前出)の條に、次の如く記載せられて居るからである。

享保六年極

一 拾ひ物之儀訴出候ハ、三日さらし主出候ハ、金子ハ落主と拾ひ候もの江半分宛爲取可申候反物之類ニ候ハ、不殘主江相返拾ひ候者江ハ落し候ものより相應ニ禮爲仕可申事

元文三年極

一 落し候物之主相知不申候ハ、六ヶ月見合彌主無之候ハ、拾ひ候もの江不殘爲取可申事

(4)

「諸届願出法式」の『拾ひもの御斷』の條に見える、『乍恐口上』一當村領字何與申處ニ而脇差一腰拾ひ有之候を今朝見付近邊相尋候得共落シ主相知れ不申候ニ付持參仕此段御斷奉申上候以上』『一當村領字何與申處ニ而何々拾ひ有之落シ主相知れ不申候ニ付當月幾日持參仕御斷奉申上候處三日見合候様被爲仰付奉畏候然處昨幾日迄見合候得共右落シ主相知れ不申候ニ付又々持參仕斷奉申上候以上』なる書式參看。

病者死傷者に關する罪

(一) 少くとも徳川中期、大坂に於ては、行倒人があつた場合、直ちにその届出をなすを要し、若し之をなさざる一定の者は、刑事責任を負はねばならなかつたこと、次の判例に就いて、之を見ることが出来るのである。

第二十三判決例 (吟味御用落着書「一收録」)

相使小川多源次「河内守殿御掛^(朱)」申渡覺「京橋貳丁目天王寺屋伊兵衛」五人組紙屋善兵衛「同、斷紙屋勘兵衛」五人組播磨屋□兵衛「同、斷大和屋六兵衛」同、斷淀屋仁兵衛「年寄油屋彌右衛門」右伊兵衛納屋下ニ行、倒人在之候處早速不訴出行、倒人相果候已後斷出候段不念之至ニ候依之過料取上ケ之、自今右跡之不念無之様ニ可相心得候」寛保三^(朱)亥四月六日

此の如き制規は、行路病者救助の爲めに出でたものと云ふべく、此意味に於て、右の判決面の犯罪は、廣義の遺棄の罪の一例と見てもいいであらう。

(二) それは扱て措き、行路病者届出義務違反に對する制裁規定は、「公事方御定書」に於ては如何と云ふに、御定書上、此點に關する法條は見當らない。「公事方御定書」に於ては、倒死者届出に就いての制規を見るのみである。その下巻第五十九條『倒死并捨物手負病人等有之を不訴出もの御仕置之事』(「徳川禁令考」待聚第三帙四五二頁)の條に、

寛保二年極
延享元年極

一 倒死并捨物等有之を押隠不訴におゐてハ

店僭地借家主

五人組

過 料 五 貫 文

名 主

過 料 三 貫 文

過 料 五 貫 文

但地主家主主五人組不存におゐてハ無構在方も右同斷

とあるものはである。

扱て、此原則又大坂の原則でもあつたかと云ふに、今その具體的資料は存しないが、次段の變死者に關する制度から推して、右掲の規定は、大坂にも行はれたであらうと考へるものである。

(三)

第二十四判決例 (諸御吟味落着書留「收録」)

卯十二月廿七日吟味「翌辰四月十四日落着」一變死之者不訴出片付候儀「高津新地六丁目小西茂兵衛借屋和泉屋勘兵衛娘つや相果道頓堀千日墓所江葬候處變死之趣相見江候由墓守不請取段訴出ニ付兩組同心指遣死骸爲候處つや咽々左右之首筋脇迄繩目之跡有之首縊死之趣に相見江由兩同心申聞ニ付死骸者其節片付申渡一件之者所預ケ申付遂吟味候上落着申渡候書付左ニ寫」高津新地六丁目小西茂兵衛借屋和泉屋「同女房小女郎」其方共娘つや儀紀州か□□村伴七女房ニ候處去秋々病氣ニ而夫伴七一所ニ當表江引越候ニ付其方共同借屋之内を借り請伴七夫婦共右借屋ニ指置養生致させ候得共つや病氣次第ニ相重リ同年十二月廿五日之夜相果候故翌廿六日同借屋長崎屋長悅與申道心者を相頼葬送いたし候儀ニ而つや死骸沐浴いたし候節者其方共并伴七立合候得共愁傷ニ而失前後を繩目之跡江茂不心付旨申之候得共つや死骸墓守不請取段訴出候節々伴七致欠落其上葬送ニも旦那寺を指置道心者江頼候仕方紛敷相聞ニ付遂吟味候處伴七儀平日夫婦間睦敷居村相仕舞つや介抱ニ引越候程之心底ニ候得者伴七仕業與者不存つや儀病氣ニハ候得共手足不叶程之病躰ニも無之ニ付伴七并其方共承之世話ニ成候を氣之毒ニ存つや自分首縊果候を伴

七見付此儀外聞を存病死之様ニ申聞候ヌ與致推察伴七江對不審心當之儀會而無之尤葬送之砌茂旦那寺を可頼筋ニ候得共身貧ニ而其日暮之其方共ニヌ候得者布施物等遣候餘斗無之長悅儀者兼而懇意ニ致シ殊道心者事故幸之儀與存相頼候ヌ之由申之候右之通變死之者檢使を不請段不埒ニ付急度咎を茂可申付處變死與乍存片付候事與者不相聞令用捨候併元來死骸不改ニ致し候段は不念之至ニ付過料取上之所預ケ指免候條向後諸事可念入候」柏原町大和屋次兵衛借屋大和屋茂兵衛女房つや姉あさ」南瓦屋町寺内屋孫六下人同人弟嘉兵衛」其方共儀父勘兵衛が屋病死之趣知らセ來候故早速罷越し候得共つや儀永々相煩居候事故病死ニ相違有間鋪與存死骸不相改旨此段不念之ヌハ候得共父申まかせ候儀ニ而變死之譯乍存病死之様ニ申なし候事與不相聞ニ付無構他參留指免候」高津新地六丁目小西茂兵衛借屋長崎屋長悅」其方儀平日勘兵衛が懇意ニ致し候與而且那寺茂有之儀に候得者斷を申つや葬送ニ指添參出家役を勤候儀者決而致間敷事ニ候故勘兵衛任頼ニ候段卒忽之至不埒ニ付急度咎をも可由付處死骸沐浴等致し候節立合候儀ニ者無之勿論變死與申儀者會而不存勘兵衛任頼ニ何之無辨右之通葬送ニ指添參候ヌ之由申之其段無相違相聞ニ付令用捨他參留指免候條向後右跡之儀無之様可相嗜候」右之通落着申渡候事」口書掛り八田五郎左衛門大西作左衛門

此判決は、大坂に於ても、變死者ありし場合は、その旨届出づべきであり、若し知りつゝ、此届出を怠れる一定の者は、處罰せられる定めであつたことを證示するのである。只本判决は、その刑罰の内容を指示する所がな

いので、此點に關する詳細を窺ふことは出来ない。しかし、恐らく「公事方御定書」下卷前掲第五十九條第二項の

延享元年極

一變死并手負い候ものを隠置不訴出其外病人等隣町江送遣におゐてハ

店借地借家主

過料五貫文

五人組

過料三貫文

名主役儀取上

過料五貫文

又同上第四十二條『奉公人請人御仕置之事』(「徳川禁令考」後(聚第二帙六三)頁)の條の一項に見える、

同○寛保
元年極

一人之仕業と相見候寄子之變死を不存分にいたし候者

所 拂

但人之仕業と不相見致變死候を不訴分ハ叱

等の原則は、大坂の原則でもあつたらうと推考するものである (尙ほ此推定は、「徳川禁令考」後聚第三帙四五九頁以下に依つて、當れることが立證せられるので

あるが、之は後の⁽⁵⁾補訂の際に譲る。

(5) 手負人居出に關する具體例は見當らないが、此原則の主旨は、早くより行はれたこと、次の令條に依つても知られる。即

ち大坂法例集「慶安元年々天和二年迄御法度書留帳」所出慶安元年四月五日の『條々』中に、『一手負自他所來者留置早

大坂奉行所刑事判決例十五題

と可申來於隱置者可爲曲事也付所之者誤ニ而少之庇たりといふとも早と申來手負帳ニ可付隱置自然手負穿鑿之刻於相知は依科之輕重可申付事」。

尙ほ「諸屆願出法式」所收の行路病死者變死者屆出書式を參照すべし。

人 藏 匿 の 罪

社會の秩序維持の爲めに、一面次節に述べる略取誘拐等を防止する目的から、人の移動を嚴重に取締り監視すると云ふことは、徳川時代時と所を通じての、一般的政策であつたと云ふことが出来る。

此政策の一つの現れと云ふべきものであるが、當時家族の成員となるには、必ず一定の手續を履み、法定の條件を備へることが必要とせられ、此手續條件を欠ける場合には、一定の者が刑事責任を問はれると云ふ定めであつた。こゝに云ふ人藏匿とは、此の如き場合を指すのである（尙ほ、犯人藏匿に關しては、先に述べた逃走の罪の節にて少しく説明せる所がある。）。

(一)

第二十五判決例

〔諸御用御窺書〕寶曆四戌年乃至十辰年の分收録〕

寶曆七丑年（朱）「盜賊方磯矢市左衛門立合八田五郎左衛門（朱）「三好半切もの（朱）「手疵負せ候一件片付之

儀窺候書付」細井安藝守」（中）「井上河内守殿御附札（朱）「書面之者共同之通可被申付候（朱）「小屋預

ヶ右大川屋兵藏女房たみ當丑貳拾貳歲」黃紙下ヶ札此たみ儀請狀取返候段不埒ニ御座候得共女之儀ニ而何

之無思慮右之仕方ニ御座候間急度叱リ候上夫兵藏江引渡可申哉(朱書)「(中略)」所預ケ御池通壹丁目河内屋
甚兵衛借屋粉川屋吉兵衛方ニ居候清右衛門當丑三拾四歳(朱書)「(朱書)」此清右衛門儀人別ニ洩居候儀
ニ付巧候筋ハ不相聞江候間所預善免御池通壹丁目ニ罷在間敷旨可申渡哉(朱書)「(朱書)」右清右衛門儀たみを奉公ニ
肝煎候様子ハ大川屋兵藏明石屋文右衛門同事之申口ニ候得共吉兵衛方人別ニ洩居候ニ付様子吟味仕候處
北堀江貳丁目綿屋喜兵衛借屋ニ而奉公人口入渡世罷在候得共身上不如意ニ付去年十一月中頃々吉兵衛方
江罷越早速致別宅候存念故人別ニ不加同家ニ差置貫候旨申之候(朱書)「(朱書)」右粉川屋吉兵衛黃紙下ケ札(朱書)「(朱書)」此吉
兵衛儀町内人別ニ不加清右衛門を同家ニ差置候段不埒ニ御座候間居町拂可申付哉(朱書)「(中略)」右粉川屋
吉兵衛家主河内屋甚兵衛並五人組(朱書)「(朱書)」此者共儀粉川屋吉兵衛方ニ人別ニ洩レ候清右衛門
居候様子不存罷在候段不念ニ御座候間甚兵衛ハ重キ過料五人組之者共ハ一通リ之過料可申付哉(朱書)「(朱書)」右甚
兵衛借屋粉川屋吉兵衛儀人別ニ洩候清右衛門を立入らせ置候を其儘ニ差置候様子吟味仕候處人別ニ無之
者同家致ス間敷旨兼々借屋之もの共江申付組合之者共五ニ改候由吉兵衛方ニ清右衛門居候様子吟味之上
承是迄不存罷在候段不念成儀無申披旨申之候(朱書)「(朱書)」御池通壹丁目年寄金屋吉右衛門(朱書)「(朱書)」黃紙下ケ札(朱書)「(朱書)」此吉
右衛門儀町内人別ニ洩レ候者有之候を不存罷在候段不念ニ御座候間重キ過料可申付哉(朱書)「(朱書)」右吉兵衛儀
町内河内屋甚兵衛借屋粉川屋吉兵衛方ニ人別ニ洩候清右衛門居候を不相糺差置候様子吟味仕候處人別ニ
無之もの差置間敷旨丁内之者共江兼々申付候由吉兵衛方ニ清右衛門居候儀曾而不存吟味之上承り不念仕

候旨申之候」右之者共片付之儀黄紙下ヶ札を以奉伺候以上」丑五月」細井安藝守

本判決に就いて、當時大坂に於ては、人別帳に記入せずして他家にある者は居町追放、無人別者を自家に置く者亦居町拂、その家主及び町役人年寄は重過料、その五人組は過料の刑に處せられると云ふ制度であつたことを知ることが出来るのであるが、之は「公事方御定書」下卷第二十五條「人別帳にも不加他之もの差置候御仕置之事」(「徳川禁令考」後(聚第二帙一〇四頁)の條の

寛保二年極

一人別帳にも不加他之ものを差置候もの

當人并差置候もの共ニ

所 拂

名 主

重 過 料

組 頭

過 料

と、全く同一原則と云ふことが出来るであらう。(6)

(6) 本誌第七卷第一號所載拙文中の第二判決例第六判決例の後段(不掲載の部分)にも参照すべき判決見ゆ。

尙ほ、人別帳に記入せずして、住居を構へ居る者に對する制裁に就いては、前掲拙文「判例近世大坂私法一斑」所掲第八判決例末段參照。

第二十六判決例 (吟味御用落着書「二收録」)

寶曆貳申十二月廿三日落着」相使淺羽久米右衛門」宿なしまつ同彌助儀者釣鐘上之町年寄天王寺屋平三郎女房并下人ニ而兩人共不斗致家出候得共まつ儀者平三郎養父實娘ニ而家筋之者ニ候間夫平三郎方へ立歸家相續いたし度旨當二月三日顯出ニ付平三郎并親類共呼出シ様子相尋候處まつ儀常々不行跡之上去未八月十五日平三郎留守之内彌助申合致欠落其後兩人行衛相知候ニ付まつ心底も相改候ハ、家筋之者故平三郎方へ可呼戻と存親類共色々異見を加へ候得共我儘を申不致承引後難之程難計同年十一月廿八日平三郎初まつ祖母妙意同伯父攝州武庫郡友行村源兵衛同伯母尼崎町貳丁目加嶋屋與兵衛母妙意同從弟右與兵衛連印之書付を以まつ不行跡之趣申立久離切度段願出聞届候旨申之ニ付久離帳面相改候處申口之通相違無之まつ彌助願之趣意不埒ニ相聞候ニ付兩人之身分致世話候西高津新地八丁目河内屋新右衛門借家佐伯屋伊兵衛をも呼出三人共入牢申付一件遂吟味候處彌助儀當時者まつと夫婦ニ相成居候得共其儀押包置勿論此度之願之筋も不埒之儀と乍存萬一理分ニ成候得者彌助爲ニも宜儀と存込下人と偽り願出候事之由令白狀重々工ミ成仕方不届至極ニ付彌助儀者死罪申付殘ル掛り合之者共落着申渡覺」宿なしまつ」其方儀夫平三郎并親類共久離願いたし候様子承候以後彌助と夫婦ニ相成候儀ニ而其以前ハ密通いたし居事ニ者無之由申之候得共元來平三郎留守を考彌助申合致欠落當時夫婦ニ相成居候上者不致密通との儀者申譯迄之儀と相聞其上平三郎方へ立歸度旨相願候ハ、平三郎初親類共其方身分立行候様取斗遣候事も可有之と存込不筋之儀を及出訴候段重々不届ニ付彌助同罪ニも可申付所密通之儀者無證據ニ付一統輕く遠島申

付候「佐伯屋伊兵衛」其方儀まつ彌助願之筋ニ携候事と者不相聞候得共兩人共欠落者と申儀并不行跡之様子も乍存まつ任頼ニ家主年寄へも不相斷一旦同家ニ差置候段不埒ニ付三郷拂申付候」天王寺屋平三郎」同人養方祖母妙意」友行村源兵衛」加嶋屋與兵衛」同人母妙意」其方共構無之候」右之通松平右京太夫殿へ相伺候上落着申渡候條一件并庄屋年寄丁人共可令承知者也」由十二月廿三日

此判決亦こゝに参照すべき一例であるが、此判決に依つて、藏匿せられる人が、欠落人即ち出奔者であつても、同原則が適用せられたものと一應考へられるのである。しかし、進んで次掲の如き判決に徴すると、欠落人藏匿の場合は、別箇の原則が行はれたらしく見えるのである。「公事方御定書」下巻第四十四條「欠落者之儀ニ付御仕置之事」(「徳川禁令考」後(聚第二帙七四八頁)の條に、

従前々之例

一 請合人も無之欠落ものを圍置候もの

過

料

なる條項を設けて、前掲第二十五條と併立せしめて居る事實を参照する時、大坂にても欠落人藏匿別扱制が、一般であつたのではあるまいかとの考が生じる譯なのである。

第二十七判決例 (「諸吟味落着書留」收録)

卯○延 卯享四八月廿六日吟味」同十一月五日落着」一欠落人引請候儀京都長者町通日暮西江入町攝津國屋伊

兵衛女房并娘致家出候處當地三津寺町樽屋茂兵衛引請致世話置候由及承候故女房娘請取度旨迎ニ遣候得者茂兵衛方ニ者居不申行衛之儀茂兵衛仕形不審有之由伊兵衛及出訴令吟味候處右女房娘を京都知惠光院通大坂屋武兵衛召連致欠落當地安治川嶋屋嘉兵衛方ニ罷在當地之者共右欠落人引請候仕方不埒ニ相聞に付一件遂吟味阿部伊勢守殿江相親候上落着申渡候書付左ニ寫「三津寺町松屋吉兵衛借屋櫓屋茂兵衛」其方儀大坂屋武兵衛連下り候女并娘引請致世話候段最初ハ不埒成ル者與乍存かくまい遣殊自分指圖を以京都迄登リ右連下り候女夫トハ縁切らせ其上ニ而奉公ニ出させ給銀を以德用可食與存取斗候段未遂事を内に者候得共仕方不埒ニ付重キ追放申付候」京都知惠光院通下ル長者町東江入町丹波屋彦兵衛借大坂屋武兵衛」其方儀攝津國屋伊兵衛女房を連下リ奉公ニ出シ給銀を以渡世ニ取付追而者右之女得心致させ可致女房與存欠落致シ來候由未奉公ニ不出銀子等不食内ニハ候得共欠落之仕方不埒に付重キ追放申付候」三津寺町松屋吉兵衛かし屋堺屋五兵衛」其方儀樽屋茂兵衛被頼大坂屋武兵衛并連下り候女兩人共一宿爲致其後右之者共出所不埒成者共與乍承リ其儘に引請借屋等迄致世話可遣旨請合候仕方不埒に付居町拂申付候」南堀江四丁目中村屋庄兵衛かし屋吉田屋彌平治」其方儀大坂屋武兵衛并連下り候女樽屋茂兵衛ニ被頼同家ニ指置候仕方徳用ニかくわり馴合候儀者不相聞候得共出所不存ものを茂兵衛頼ニまかせ家主江不相届同家ニ指置候段不埒ニ付過料申付候」安治川上貳丁目□屋伊左衛門かし屋嶋屋嘉兵衛」其方儀下方兵衛并連下り候女同家ニ指置候段武兵衛妻子與偽居候ニ付無相違事與□居候由申之不埒之儀も不

相聞ニ付無構所□指免候」京都上長者町通日暮西江入町攝津國屋伊兵衛女房さき」其方儀大坂屋武兵衛與一所ニ京都の下リ候段不儀ニ而ハ無之由申候得共武兵衛與一所ニ當地江下リ居候仕方夫有之女ニ有間鋪身持不埒至極全不儀與相聞候ニ付遂糺明急度可申付者ニ候得共畢竟者武兵衛惡心ノ事發リ無思慮下リ候儀與相聞夫伊兵衛茂不儀之筋疑無之吟味不賴其方并娘請取度旨賴之ニ付無構渡遣候條夫伊兵衛ニ隨ひ以來急度相愼不埒無之樣可致候」京都上長者町通日暮西江入町兼屋長兵衛借屋攝津國屋伊兵衛」其方女房娘を召連レ下リ候武兵衛并引請候當地之者共右之通御仕置申付候間得其意可申候さき儀其方江無斷當地江下リ候段不埒ニ付遂糺明急度可申付者ニ候得共其方儀不義之筋疑無之女房娘請取度旨任賴に無構渡遣候條召連可歸候」右之通落着申渡候事」口書掛リ田中宇左衛門桑原勝之丞

第二十八判決例

〔諸御用御窺書〕明和四亥年乃至五子年の分收録〕

女を連退同家ニ差置候内家出仕候一件」御仕置窺書」書面御附札之通御仕置可申渡旨被仰渡奉畏候」亥十一月五日」明和四丁亥十月十五日御伺書上ル（朱書）」同十一月五日御城代御差圖濟（朱書）」同月九日落着（朱書）」同日承付ケ上ル本紙者書留方江渡ス（朱書）」鶺鴒出雲守」内藤十右衛門御代官所攝州東生郡天王寺村馬場先町河内屋次兵衛借屋榎木屋次兵衛女房かね儀當二月廿五日家出仕行衛不相知ニ付同月廿八日此段斷出候處玉造中町萬屋小右衛門借屋高津屋乙之助同家兄善兵衛儀かね引込置候を見届候故差戻候様申候

得共不相渡旨善兵衛相手取同八月七日次兵衛願出候ニ付善兵衛かね呼出様子相尋候處かね儀は和州郡山
蘭町松屋清圓同家孫ニ候處次兵衛連退候儀故在所江歸度存善兵衛を相頼清圓方江申遣迎之者參候迄善兵
衛弟乙之助方ニ當分罷在候事之由申之次兵衛仕方不埒ニ相開候ニ付次兵衛者入牢此外掛リ合之者共所預
々他參留等申付置一件吟味仕候趣左之通ニ御座候御城代松平和泉守殿御附札^(朱)此大兵衛儀輕追放可
被申付候^(朱)亥閏九月九日入牢内藤十左衛門御代官所攝州東生郡天王寺村馬場先町河内屋次兵衛借屋
樫木屋次兵衛亥三十二歳黄紙下ケ札此次兵衛儀かねを連退候上かね祖母清圓江押而女房ニ貰掛ケ候得
共得心不仕清圓忤五兵衛吉兵衛を度々次兵衛方江迎ニ遣候處我儘を申不相渡其上次兵衛儀太四郎與父子
之續合茂不申聞親類與斗家主江相届次兵衛代判仕かねは大四郎姉之由是又家主江相届先達而かね家出仕
候節茂奉行所江其趣ニ乍斷置此度善兵衛相手取願出候書面ニ者かねを次兵衛女房與相認前後相違之儀申
立候段重々不届之仕方ニ御座候間重キ追放可申付哉^(略)此善兵衛儀伺之通急度叱リ置他參留差免可
被申候^(朱)他參留玉造中町萬屋小右衛門借家高津屋乙之助同家兄善兵衛亥二十九歳黄紙下ケ札此善
兵衛儀かね欠落者與乍存弟乙之助方ニ引込置候事とは不相聞候得共かね任頼身分之様子も不相糺清圓方
江罷越迎之者差越候様申達罷歸乍暫茂欠落者乙之助方ニ差置候段者不念之仕方ニ御座候間急度叱リ置
他參留差免可申哉^(略)此乙之助儀伺之通叱リ置他參留差免可被申候^(朱)他參留右高津屋乙之助亥十
七歳黄紙下札此乙之助儀かね身分之様子茂不相糺兄善兵衛任申乍暫茂欠落者差置遣候段者不念之

儀ニ御座候得共かね儀は善兵衛知ル人ニ而かね頼候趣清圓方江罷越申聞候由善兵衛申ニ付其儀を慥ニ存かね差置遣候段無相違相聞候間叱リ置他參留差免可申哉」(略中) 右之者共御仕置黃紙下ケ札を以奉窺候以上」亥十月」鵜殿出雲守

以上の判決に依つて、欠落人藏匿の場合の、大坂の原則の要領を窺ふことが出来るのであるが、就中第一の判決中、堺屋五兵衛を過料と判決せるは(次節所掲第三十一判決の吉田屋平次處刑又同じ)、前掲「公事方御定書」下卷第四十四條の條項と同一原則に、準據せるものと云ふことが出来るであらう。

扱て、欠落人藏匿に關しては、大坂方の原則の方が詳細である様に見えるが、それは兎も角、此方面に關しても、少くとも徳川中期時代、大坂の原則と「公事方御定書」のそれとは、先づ同様であつたとなすことが出来るであらう。

人 勾 引 の 罪

少くとも大坂に於ては、徳川中期時代、奉公人を或期間單に『連出』せる場合と雖も、犯罪を構成したのである。即ち、次の判決例はその徵證である。

第二十九判決例

(「諸御用御寢書」寶曆四戌年乃至十辰年の分收録)

寶曆七丑年(朱)「盜賊方磯矢市左衛門立合八田五郎左衛門(朱)」三好半切もの(書)「茶立奉公人を連出

候者片付之儀相窺候書付」細井安藝守」丑五月廿一日入牢宿なし藤八當丑貳拾四歳」黃紙下ケ札(朱)」此藤八

儀衣類取返候儀ニ者無之みちい、わ、申、合、參、宮、可、致、與、存、拔、出、候、事、之、由、申、之、全、若、氣、ニ、而、之、任、方、與、相、聞、江、候、得、共、
主人江も不、屈、兩人之者、を、連、出、候、段、不、埒、ニ、御座候間九八郎方ニ勤居候内之請人江引渡日數廿日手鎖を掛ケ

預ケ置可申哉(朱)」井上河内守殿御附札(書)」みちい、わ、儀者主人江爲相返藤八儀者伺之通廿日手鎖可被

申付候(朱)」右藤八儀道頓(原髪とあるは誤ならん)堀御前町大村屋九八郎下人ニ候處去ル五日九八郎抱茶立奉公人み

ちい、わ、兩人を召連衣類拾六色取返候旨願出候ニ付召捕吟味仕候處みちい、わ、儀勢州江致參宮度旨申候得共

主人承リ候而者聞届申間敷與存銘々着替致用意去ル五日之夜申合拔出候處路銀無之堺九〇〇町六軒筋和

泉屋伊兵衛同家嘉助者藤八兄ニ候故嘉助を頼銀百拾匁致調達候得共右銀高ニ而者三人之路用ニ足り不申

候ニ付猶又才覺可致與存嘉助方ニ致逗留居候得共何分不相調候故みちい、わ、兩人之内壹人者立歸可然旨申

聞候得者い、わ、儀歸度由申候ニ付去ル十五日途中々差歸シみちを連歩行居候」被、捕、候、右、衣、類、之、儀、者、主、人

カ常々みちい、わ、兩人手前江請取置候品故銘々旅用意ニいたし取返候事ニ者毛頭無之旨申候ニ付致參宮致

候段者申立迄ニ而みちい、わ、望候を幸ニ連出實者何方江ニ奉公ニ出シ銀子食候存念ニ可有之旨猶又吟味仕

候處奉公ニ出シ徳用可食與存候儀ニ者曾而無之兩人之もの申ニまかせ若氣ニ而前後無思慮右之仕方ニ候

由主人江も不相届召連出候段吟味之上無申披後悔仕候旨申之候」右大村屋九八郎抱茶立奉公人預ケみち

當丑貳拾歲預ケいわ當貳拾一歲」黃紙下ケ札^(朱書)「此みちいわ儀主人江相屆候上可致參宮處無其儀藤八申合拔ケ出候段不埒ニ候得共女之儀故何之無辨右之仕方ニ御座候間急度叱置□哉^(朱書)」右兩人儀藤八同事之中口ニ而兼ミ伊勢參宮望候得共主人江申達候てハ聞届申間敷與存ひそかに藤八を頼拔出候處路銀不足之由ニ而壹人者立歸候様申候ニ付相談之上いわ儀者去ル十五日主人方江立歸リ候旨申之候」大村屋九八郎儀いわ立歸候旨訴出候ニ付みち并持出候衣類不殘相渡衣類之様子相尋候處常ミみちいわ兩人之者江渡シ切ニ渡シ置候品之由三人共若氣ニ而之仕方ニ存少も申分ン無之候ニ付願相止みちいわ儀者殘ル年季も在之候得共其儘ニ召仕度旨口上書差出申候^(朱書)」右之者共片付之儀黃紙下ケ札を以奉伺候以上」丑五月」

細井安藝守

此の如き『連出』又廣義に於ては勾引であるであらうが、當時普通勾引とは、今日の略取誘拐に該當する場合、利欲の目的に出でたる勾引を指すものであるらしい^(次段掲出の判決例に就いて)。

扱て先づ、徳川中期に於ける、略取誘拐事件に關する大坂判決を掲げて見よう^(前節人藏匿の罪の中に掲げたる、第二十七判決例中大坂屋武兵衛に對する判決も參照)。

第三十判決例 (「諸御吟味落着書留」收録)

辰○延 九月六日吟味同廿三日落着」一勾引奉公人一件」惡黨共申合幼少之者を勾引或者身元不知女抔

を不筋之奉公に指出銀子徳用を貪取候者共有之趣相聞ニ付惡黨共召捕入牢申付其外右ニ携候者呼出シ所預等ニ申付置一件遂吟味酒井讃岐守殿江相親候上重罪御仕置之者江檢使與力^カ爲讀渡候書付并落着書左ニ寫」宿なし和州の藤七」其方儀幼少之者を勾引其外身元不知者を奉公遣其上女房可致與申合たる者を奉公ニ出シ給銀取候上欠落爲致其者を濱ニ江身賣ニ出シ候趣一々白狀ニ載ル所重ニ不屈至極ニ付町中引廻シ獄門ニ可申付旨酒井讃岐守殿被仰渡之」宿なしく路の治郎兵衛」其方儀身^{（原見とあ）}元不知者を身賣奉公ニ出シ鳥目貪其上不埒之儀を頼まれ禮物可取ため本人不得心之儀を可願出旨申進候趣一々白狀ニ載ル所重ニ不屈至極ニ付町中引廻死罪ニ可申付旨酒井讃岐守殿被仰渡之」宿なし鏡台其方儀行衛不知伊勢の七兵衛申合幼少之者を勾引其外身元不知者を奉公出シ銀子貪取候趣一々白狀ニ載ル處人賣之仕方重ニ不屈至極ニ付町中引廻シ獄門ニ可申付旨酒井讃岐守殿被仰渡之」河州河内郡市場村市郎兵衛」同州同郡池之嶋村播磨屋長兵衛」其方共儀身元不知者を買取候而互ニ判形致し奉公ニ出シ其外怪敷請狀を以所ニ江奉公ニ出シ銀子徳用を貪り渡世致候趣一々白狀ニ載ル所重ニ不屈至極ニ付町中引廻獄門ニ可申付旨酒井讃岐守殿被仰渡之」十二月」申渡覺」宿なし京の茂兵衛」其方儀宿なし鏡台并行衛不知伊勢の七兵衛牧方ニおひて幼少之者勾引候儀ニ馴合右兩人ハ銀子貰其外身元不知者を奉公ニ出シ銀子可取と存付橋と迄尋廻リ旅人躰之者ニ奉公すゝめ同類之者江渡候仕方旁不屈ニ付於高麗橋三日肆遠嶋申付候」高津新地四丁目丸銅屋新十郎借屋く路の吉兵衛支伊丹屋茂右衛門」其方儀宿なしニ而居候内身元不知者を宜奉公與

偽リ煮賣屋江遣シ銀子取之剩右奉公人主人方が使ニ出シ候途中より連歸リ又々奉公ニ出シ銀子可取與存付候段旁不届ニ付於高麗橋に三日肆遠嶋申付候」同町同人借屋白髮の九兵衛事紀伊國屋七兵衛」其方儀自分ニ勾引候者無之趣ニ候得共市場村市右衛門方江遣シ置候さよ儀者全花賣伊兵衛勾引候爰ニ候處請込奉公ニ遣シ其外身元不知奉公人肝煎銀子食候段不届ニ付遠嶋申付候」角倉與市御代官所河州河内郡池之嶋村百姓武八郎借屋長左衛門」其方儀宿なし鏡台が奉公人請取候儀同借屋播磨屋長兵衛鏡台與ハ懇意ニ而每度長兵衛方江參候を見請鏡台ハ慥成者之由長兵衛引合候ニ付不斗引請候旨申之平日怪敷奉公人之肝煎渡世ニ致シ候事與ハ不相聞候得共宿なし者之手前が身許不知者を請取候仕方不届ニ付輕キ追放申付候」高津新地四丁目丸銅屋新十郎借屋大和屋甚左衛門」其方儀身元不知者を方々江連歩行其上請判シ判賃取候仕方不届ニ付輕キ追放申付候」古川貳丁目尼崎屋清兵衛かし屋辰巳屋彌兵衛」其方儀宿なし者が身元不慥成者を請取身賣ニ出シ致渡世候段不届ニ付輕キ追放申付候」宿なし圓庵其方儀宿なしニ而身元不知女を勸メ身賣爲致候段不届ニ付輕キ追放申付候」宿なし鏡屋勘兵衛」其方儀好身無之者を實子與僞リ奉公ニ遣銀子取候仕方不届ニ付輕キ追放申付候」橘通三丁目播磨屋次兵衛借屋和泉屋七兵衛」其方儀同借屋丹波屋忠兵衛娘さんを致親判奉公ニ出シ候段紛敷仕方不埒之爰ニ付乍然右きん儀前方が忠兵衛方ニ居候娘ニ者無相違勾引候儀與ハ不相聞ニ付無構出牢申付候以來不筋之儀無之様急度可相慎候」高津新地五丁目海老屋久右衛門かし屋角屋八郎兵衛」同所四丁目明石屋大助借屋廣嶋屋平兵衛女房志け」其方共宿

なし之節さよを引請置候仕方怪敷品無之ニ付無構出牢申付候以來不筋之儀無之様可相愼候」吉原町明石屋七兵衛借屋塚口屋庄兵衛女房つま」西高津新地菊屋久左衛門かし屋河内屋清兵衛」高津新地堂丁目土佐屋市兵衛かし屋天王寺屋清兵衛」宿なし吉原の新助」右新助女房さく」宿なし權八の善四郎」其方共儀怪敷奉公人之筋ニ携候(原重出は衍)趣相聞江候ニ付逢吟味候處不埒之品無之ニ付無構出牢申付候以來不埒之儀無之様可相愼候」長町八丁目松屋太左衛門かし屋人形屋善七」其方儀行衛不知者ヲ抱置候を見込主人有之茶立奉公人を取戻シ手間取ニ雇ひ置候其上女房ニ致可遣與存宿なく路の治郎兵衛を頼候段徳用ニ抱リ候筋ニハ無之候得共更を好候仕方不埒ニ付手鎖申付候」長町九丁目樫木屋善兵衛方ニ當分居候かん」其方儀宿なし圓廣任勸メニ隱實女勸候段不埒ニ候得共他國者ニ而御法度與申儀無辨右之仕方與相聞ニ付無構領主家來江相渡候」(略中)宿なし福嶋の半兵衛」其方儀市を途中々連歸候段徳用ニ拘リ候更ハ無之不便ニ存連歸候趣ニ茂相聞江候得共市方ヲ頼候儀茂無之處幼少之者を誘ひ來リ奉公ニ出し銀子取候段勾引同様之仕方不届ニ付重キ追放申付候」河州河内郡水走村河内屋宇兵衛同家親五郎兵衛」其方儀京七條新地上三之宮町兩國屋八郎左衛門娘はや勢州飯高郡□ぶ村百姓幸助娘小さん右兩人を一旦下女ニ抱置候上茶立奉公ニ遣候仕方實親との相對ニ而奉公人共も致得心居候段無相違相聞候得共親類ニ而茂無之者を致親判奉公ニ出し過分之給銀取候段不届ニ付攝河兩國拂申付候」(略下)

第三十一判決例 (御吟味物料書并御伺書扣) 收録)

掛役人田中宇左衛門桑原勝之丞^(朱)「闕落者引請候一件」御仕置窺書「延享四年^(書)」卯十月「小濱周防守」京都上長者町通日暮西江入町攝津玉屋伊兵衛女房并娘致家出候處當地三津寺町樽屋茂兵衛引請致世話置候間女房娘請取度存迎遣候得者茂兵衛方「は不居行衛之儀」付茂兵衛仕方不審有之由伊兵衛及出訴「吟味仕候處右女房娘を京都知恵光院通大坂屋武兵衛召運致欠落當地安治川嶋屋嘉兵衛方」罷在當地之者右欠見落人引請候仕方不埒「相聞候」付右携り候者共入牢預ケ等申付一件吟味之趣左之通「御座候」^(略中)御城代阿部伊勢守殿御付ケ札寫「重キ追放可被申付候」黃紙御下ケ札寫^(朱)「此者夫ト有之女并娘を連下リ不埒成武兵衛與乍存引請置右女を夫ト縁切セ其上ニ而奉公ニ出させ徳用可貪與相工候段未事を遂さる内ニハ候得共仕方不届」付重キ追放可申付哉^(朱)「卯七月廿五日入牢三津寺町松屋吉兵衛借屋樽屋茂兵衛當卯四拾五歳」右茂兵衛儀武兵衛さきもとを引請致世話候仕方吟味仕候處武兵衛儀前方當地炭屋町ニ罷在其時分茂兵衛儀髮結働いたし右丁内を廻り近付ニ候處武兵衛儀其已後京都江罷越候由當六月二日右伊兵衛女房并娘を召連京都を致欠落來候由委細之譯申聞當地ニ而借屋かり致渡世度候間暫同家指置吳候様ニ申候得共茂兵衛方も間狭ニ候故同借屋堺屋五兵衛を頼其夜泊セ翌三日ハ南堀江四丁目吉田屋彌兵次方江三人共預ケ置茂兵衛儀武兵衛江不知同月五日之夜京都江登翌六日さき親庄兵衛方を尋參右三人之者引請置候趣申聞女房は夫ト離縁致させ娘斗差戻シ度與致相談懸候由始終之申口庄兵衛傳吉

同事ニ而離縁之儀茂兵衛存念之通ニ不相成翌七日之朝庄兵衛同道ニ而下リ兩人之女可渡與存預ケ置候彌平次方江參候處前夜致家出行衛不知ト申ニ付致方無之其段庄兵衛江申聞置候夏之由申之ニ付武兵衛儀夫ト有之女并娘を連下リ不埒成仕方と申儀最初ト存引請其後武兵衛江不知蜜ニ京都江登リ庄兵衛方を尋參右之女夫ト伊兵衛ノ縁切候様ニ申懸武兵衛不頼事ニ候を自分作略を以右之取斗全右之女召連下リ候を幸ニ引受武兵衛江不抱ラ夫トノ縁切セ置右之女遊女奉公ニ出シ其給銀を可食工與相聞ヘ候旨吟味仕候處京都江登リ候儀武兵衛江知セ候而ハ疑若シ外江參候儀も可有之哉一旦世話ニ懸リ候儀ニ候ヘハ是非引請伊兵衛ノ縁切セ武兵衛心儘ニ成候女ニ致置追而は奉公ニ出させ候歟又は如何様ニ成共片付之品ニ寄相應ニ德用可取與存最初ト不埒成武兵衛與存引受置候事之由右段々之仕方吟味之上無申披旨申之候」御付ケ札寫」重キ追放可被申付候」黃紙御下ケ札寫(朱書)」此者夫ト有之女を連下リ奉公ニ出シ給銀を以渡世ニ取付追而ハ右之女ニ得心させ妻ニ可致與存連下リ未奉公ニ不出銀子等不貪内ニハ候得共段々之仕方不屈ニ付重キ追放可申付哉(朱書)」卯七月十九日入牢京都智恵光院通下長者町東江入ル町丹波屋彦兵衛借屋大坂屋武兵衛當卯貳拾八歳」右武兵衛儀伊兵衛女房并娘を連下候様子吟味仕候處當六月朔日さき儀娘を連伊兵衛門先ニ居候節武兵衛參懸リ候得はさき儀武兵衛與不義之沙汰有之由ニ而伊兵衛嚴敷致異見難儀之旨咄候ニ付右さきを外江連退得心致させ候上妻ニ可致與不斗惡心差起リ右之通夫伊兵衛嚴敷致異見候ハ幸武兵衛儀大坂祭禮見物ニ參候間暫之内大坂江罷越其上ニ而不義之趣伊兵衛懇意之者を以詫いたし候ハ此

已後嚴敷も致間敷^ハ與さき納得致候様ニ段々申掛ケ伏見迄連參直ニ夜船ニ而當地江下リ右茂兵衛方江參身分之儀申聞セ同家ニ指置吳候様ニ頼候へは早速致得心茂兵衛より堺屋五兵衛を頼一宿致させ貫翌三日の曉^ハ吉田屋彌平次方江罷越居候處茂兵衛儀^ヲニ京都江登リ候之由五兵衛申聞候ニ付若シ伊兵衛方江知セニ參候義ニ而も可有之哉彌平次方ニ居候事無心元相成兄嶋屋嘉兵衛與ハ久敷不通いたし難參存候得共無致方安治川迄五兵衛ニ道を教貫罷越候處折節嘉兵衛病氣ニ而幸之所江參候^ハ扨と心能挨拶候故當地ニ而致渡世度存京都之借宅を仕廻妻子共連下リ候趣ニ偽を申聞同家ニ相成居候由申ニ付右の通ニ而さき井娘もとを連下リ候仕方全致^テ蜜通居候儀と相聞候旨吟味仕候處兼而不義無之勿論連下リ候儀さきと申合置候事ニ而無之段申ニ付右の通ニ候ハ、當地江連下リ遊女奉公ニ差出シ給銀可食與相工ミ樽屋茂兵衛其外一件ニ携リ候者共與通路致シ合勾引連レ下リ候儀ニ可有之候左も無之茂兵衛近付迄ニ而ハ不埒之身分打明可咄様も無之茂兵衛も一通リニ而者致セ話間敷事徳用之儀茂兵衛江も申聞置候故之儀與相聞候旨重々吟味仕候處當地之者共與兼而申合勾引連下リ候儀ニ而者無之勿論遊女奉公ニ可遣與相工候儀無之途中ニ而出合不斗惡心差發リ連下リ茂兵衛儀前方近付之事を存出シ頼候得は無何事かくまひ吳候ニ付當分さきを奉公ニ出シ給銀ニ而渡世ニ取付右娘を可致養育與存居候迄ニ而茂兵衛江も右心底之趣ハ申隱シ罷在候得共茂兵衛存念ニ惡心有之一通リニ而致世話吳候哉一向其所江は不心付由夫有之女を押而連下リ奉公ニ指出シ給銀を以渡世ニ取付追而はさきを妻ニ可致與存付殊ニ幼少成娘迄も連レ致欠落來候段吟味之上無申披旨申

之候」御付ケ札寫「居町拂可被申付候」黃紙御下ケ札寫^(書)「預ケ三津寺町松屋吉兵衛借屋塙屋五兵衛

當卯貳拾九歳此者身分ニ不抱ヲ義を被頼出所不埒之者與乍存引請借屋等世話いたし可遣與請合候仕方不埒

ニ付居町拂可申付哉^(書)」右五兵衛儀三人之者共一宿致させ其後武兵衛身分ニ付致せ話候仕方茂兵衛武

兵衛申口之通ニ而嶋屋嘉兵衛方迄連參其節武兵衛申候ハ茂兵衛儀蜜ニ京都江參候心底無覺束候間安治川

ニ居候趣隨分申隠シ借屋其外買物等之儀も五兵衛致世話吳候様相頼候故引請吟味ニ成候迄も三人之者居

所申隠シ居候由申之ニ付最初茂兵衛ニ被頼一宿致させ候儀は相借屋にて無據頼懸ケ候ハ、可有之事ニ候

ヘ共其後武兵衛儀夫ト有之女を連下リ出所不埒之者與乍存借屋等かり可遣與請合候は右連下リ候女を

見込ニいたし遊女奉公ニ出させ其給銀可取與申合夫故身分ニ不抱ヲ事を致世話候儀與相聞候旨吟味仕候

處武兵衛無據頼掛ケ候ニ付引請勿論右之世話致シ遣置候ハ、追而相應ニは徳用之筋も可有之哉與存居候

迄ニ而右之女遊女奉公ニ可出杯與申合候儀少も無之由畢竟追而之徳用ニ心迷ひ身分ニ不抱ヲ事を取持出

所不埒之者與乍存當地ニ住居致させ候世話引請候段吟味之上無申披旨申之候」御付ケ札寫「過料可被申

付候」黃紙御下ケ札寫^(書)「此者欠落人同家ニ指置候仕方徳用ニ抱リ馴合候儀ニは不相聞候得共出所不

存者を茂兵衛任頼ニ家主江不届三人迄同家ニ指置候段不埒ニ付過料可申付哉^(書)」預ケ南堀江四丁目中

村屋庄兵衛借屋吉田屋彌平次當卯三拾三歳」右彌平次儀三人之者同家ニ差置候仕方茂兵衛申口之通ニ而最

初頼來候節身貧之者ニ候ヘハ迷惑之旨斷申候處飯米入用等不殘茂兵衛ノ可遣間是非同家ニ差置吳候様達

而相頼候故かくまひ候由申之ニ付三人之者出所不埒之様子乍存茂兵衛馴合徳用抱リ引請候儀可有之與吟味仕候處出所之儀曾而不存茂兵衛親類之由申ニ付無相違事與存同家ニ指置候内三人共致家出其後之様子不存由茂兵衛儀者兼而懇意ニ仕來鳥目杯之無心申掛ケ候程之間柄ニ候故茂兵衛申通り仕置候ハ、重而無心申懸候節之爲ニも可相成哉與存候迄にて最初々馴合徳用ニ抱リ候儀者無之候茂兵衛頼ニ任家主江届不致身元不存者を同家ニ差置候段は吟味之上無申披旨申之候」(下略)

所で人勾引に關する「公事方御定書」の原則如何と云ふに、その下卷第六十一條『人勾引御仕置之事』の條に、

従前々之例

一人を勾引候もの

死

罪

寛保二年極

一勾引候ものと馴合賣遣分ヶ前取候もの

重

キ

追

放

と見えるものが、關係條項である。

扱て、前出判決例の示す所に依つて、勾引に關する大坂の法則は可成り詳細であつたことが窺へるのに對して、「公事方御定書」には只右の二項の規定あるのみにて、大坂の原則は又そのまゝ「公事方御定書」の原則であつたか否か、簡單には決せられないが、少くともその制度の精神(一言にして云へば人勾引嚴罰)に於ては、兩者同一であつたと云ふことは出来るであらう。